梅若会別会能　平成 28 年 11 月 20 日(日)　午前 11 時開演

能『俊寛(しゅんかん)』

俊寛、康頼、成経は鬼界(きかい)が島(しま)に流刑された。

孤島にあっても康頼と成経は信心を怠らず毎日参詣しているが、俊寛はそれには加わらずに生きながら冥途のような窮乏生活をしている。しかしまだ若い剛勇の壮者である。
今日は菊の節句なので三人が水の酒で宴を開いていると、
赦免状を携えた都の使いが到着し…。

□ 配役　　シテ(俊寛僧都)　　松山隆之

ワキ(赦免使(しゃめんし))　　宝生欣哉

ツレ(平判官康頼(へいはんがんやすより))　　角当直隆

ツレ(丹波少将成経(たんばしょうしょうなりつね))　　小田切亮磨

□ あらすじ

平家討伐の陰謀が暴かれ、この陰謀に加担した俊寛僧都・平判官康頼・丹波少将成経は絶海の孤島・鬼界が島に流刑される。平清盛は娘の建礼門院が天皇の子を宿すと、皇太子誕生を願い大赦令を出す。鬼界が島の三人が水を酒に見立て飲み交わし菊の節句の宴を開いていると、三人のもとへ赦免使が訪れ赦免状を渡す。喜ぶ三人のうち康頼が書状を読みあげると、俊寛は自分の名前が無いことに気づき、自分一人許されないことを嘆く。使者が康頼・成経を船に乗せると俊寛はとも綱にしがみつくが、使者は櫓を振り上げ俊寛を押し切って船を出す。船を見送り号泣する俊寛はただ一人渚に取り残される。

□ 見所・聞き所

○赦免状のどこかに自分の名がないかと赦免状を裏返してまで探す。
一 地謡 「俊寛とも書ける文字は更に無し。こは夢か さても夢ならば。覚めよ、覚めよ」
○船のとも綱にしがみつくが振り切られる。
○号泣する　　両手でシオル(泣く型)。

□ 他に

能『羽衣』彩色　シテ 会田昇　　ワキ高井松男
能『望月』　　シテ 山中迂晶　ワキ殿田謙吉　ツレ 梅若紀彰　　子方山中つばめ
仕舞「遊行柳」　　梅若玄祥
仕舞「船弁慶」　　梅若長左衛門
狂言「呂蓮」　　野村萬斎

問いあわせ　松山隆雄後援会
(TEL・FAX 042-748-2822)